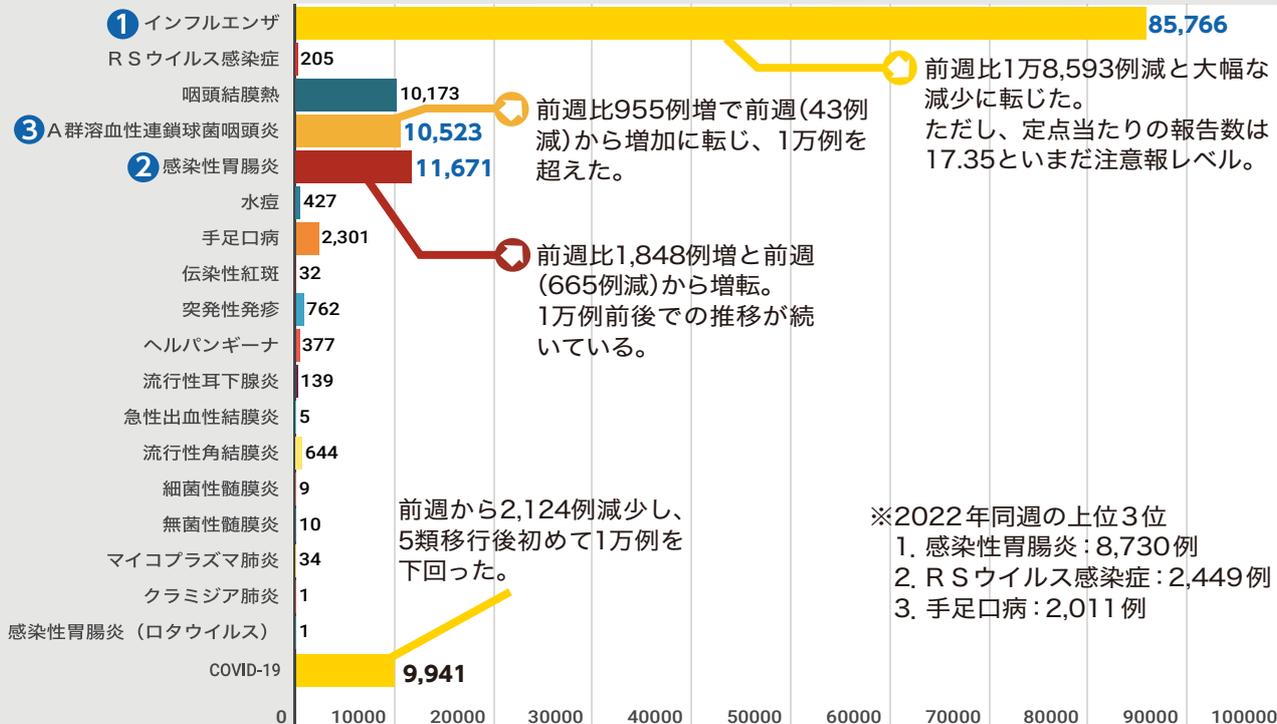


国立感染症研究所が発表する感染症発生動向調査週報「定点把握疾患(週報告)、累積報告数、定点当たり累積報告数、都道府県別」に基づいて、毎週の感染症報告動向をお届けする。

インフル減少も、咽頭結膜熱が警報レベルに

丸数字は上位3位



(国立感染症研究所のデータを基に編集部作成)

1 インフルエンザ

報告数	定点当たりの報告数(17.35)
1. 北海道: 5,826例	1. 佐賀県: 36.13
2. 埼玉県: 5,822例	2. 山梨県: 29.78
3. 愛知県: 5,333例	3. 長野県: 27.78
	4. 愛知県: 27.35
	5. 北海道: 25.78
	6. 埼玉県: 22.31
	7. 高知県: 22.27
	8. 大分県: 21.91
	9. 鳥取県: 21.45
	10. 福島県: 20.99
	11. 徳島県: 20.95
	12. 岐阜県: 20.28

2 感染性胃腸炎

報告数	定点当たりの報告数(3.71)
1. 東京都: 1,132例	1. 福井県: 7.76
2. 神奈川県: 843例	2. 熊本県: 7.20
3. 埼玉県: 818例	3. 大分県: 6.81
	4. 福岡県: 6.62
	5. 香川県: 5.89
	6. 山梨県: 5.13
	7. 群馬県: 5.11
	8. 石川県: 5.07
	9. 埼玉県: 4.99
	10. 宮崎県: 4.81
	11. 千葉県: 4.36
	12. 東京都: 4.32

3 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

報告数	定点当たりの報告数(3.34)
1. 東京都: 1,167例	1. 鳥取県: 6.47
2. 大阪府: 826例	2. 宮崎県: 6.31
3. 埼玉県: 815例	3. 山口県: 5.70
	4. 福岡県: 5.14
	5. 埼玉県: 4.97
	6. 千葉県: 4.59
	7. 東京都: 4.45
	8. 大阪府: 4.19
	9. 奈良県: 3.97
	10. 愛媛県: 3.81
	11. 三重県: 3.73
	12. 熊本県: 3.68

今週の感染症動向

第33週(8月14～20日)以来増加していたインフルエンザが約2万例の大幅な減少に転じ、警報基準値(30.00)超えの地域も6県から佐賀県(36.13)のみに縮小した。しかし、定点当たりの報告数は17.35と注意報レベル(10.00)を超え、青森県と福井県を除く45都道府県で注意報レベルにあることから、いまだ全国的な流行状況に変わりはない。感染性胃腸炎とA群溶血性連鎖球菌咽頭炎はいずれも前週から増転した。さらに咽頭結膜熱が1万例(1万173例)を突破、定点当たりの報告数は3.23で警報値(3.00)を超えた。警報値超えの地域も前週の11都道府県から25都道府県に拡大し、特に福岡県で7.41、奈良県で6.41、佐賀県で6.30と多い。

COVID-19は4週連続で2,000例近く減少し、5月8日の5類移行後初めて1万例を下回った。

佐賀県では2疾患が警報レベルに達し、複数の感染症が警報および注意報レベルに達する地域が続発することも懸念され、今後の動向に注視したい。